

法テラス広島

スタッフ弁護士インタビュー



法テラス（正式名称は、「日本司法支援センター」といいます。）は、法制度等の情報提供、民事法律扶助、国選弁護制度の運用、過疎地における法律サービスの提供、犯罪被害者支援、司法ソーシャルワークなど、さまざまな活動を行っています。それら法テラスの活動の担い手として、スタッフ弁護士（正式名称は、「常勤弁護士」といいます。）は全国各地に赴任して法的サービスを提供しています。広島県内にも「法テラス広島法律事務所」が設置され、スタッフ弁護士として現在2名の弁護士が勤務しています。スタッフ弁護士は、一般の弁護士とは活動内容が異なる部分もあり、どのような活動をしているかイメージしづらいところがあるかと思います。そこで、「法テラス広島法律事務所」のスタッフ弁護士にインタビューを行いましたので、これを機会にスタッフ弁護士の活動や魅力を知っていただき、法テラス及びスタッフ弁護士をもっと身近に感じていただければと思います。

工藤 舞子 常勤弁護士 (スタッフ弁護士)

◆スタッフ弁護士の1日のお仕事の流れを教えてください。

朝9時頃に出社し、10時頃から17時までの間で、裁判、法律相談や依頼者との打合せ等をします。17時以降に、弁護士会の委員会への出席や書面の作成などを行っています。

◆職場の雰囲気をお願いします。

依頼者のお困りごとは深刻なものも多く、その内容を聞いてしんどい気持ちになることもありますが、それを吹き飛ばすくらい、楽しい職場だと思います。弁護士も事務員も一丸となって、つらい思いをしている依頼者のために頑張っています。

◆趣味・特技はなんですか。

最近の趣味は、高級食パンの食べ比べです。もともとパンが好きではなかったのですが、たまにもらった、ふわふわの食パンに衝撃が走りました。調べてみたらいろいろなお店があるみたいなので、食べ比べをしています。



◆学生時代に打ち込んでいたことはありますか。

英語会というサークルに入り、サークル活動に打ち込んでいました。英語でディスカッションやディベートをしていました。大学の友人と朝から夜中まで一生懸命に活動することで、自分の体力・気力の限界にチャレンジできました。



◆なぜ弁護士になろうと思ったのですか。また、その中でスタッフ弁護士を選んだ理由はなんですか。

小さいころから、人から「ありがとう」と言われる仕事をしたいと思い、漠然と司法試験を目指していました。司法試験合格後、修習生という研修時代に、弁護士、検察官、裁判官の仕事を学び、依頼者一人一人に寄り添うことのできる、弁護士という仕事を選びました。弁護士の仕事も様々ですが、法テラスのスタッフ弁護士の先輩が、福祉機関と連携して、高齢者や障がいを持つ方の支援をしているという話に共感して、スタッフ弁護士を選びました。

◆弁護士になっていなければ何になっていたと思いますか。

メーカーに勤務して、営業職をしていたと思います。大学4年生のとき、就職活動をしました。このまま法科大学院に行っているのかと悩み、社会勉強と思い、就職面接を受けました。最終面接まで行ったのが、メーカーの営業職でした。その最終面接で、「弁護士になりたい」という気持ちを、面接官に引き出していただき、弁護士を目指すことにしました。

◆スタッフ弁護士の仕事をされていて嬉しかったこと、やりがいを感じることで、大変だったことはなんですか。

スタッフ弁護士の仕事は、福祉機関と連携をして進めることが多いです。高齢で認知機能が低下してきた方や障がいを持つ方の中には、自分が法的トラブルに巻き込まれていることに気が付かない方もいらっしゃいます。いい人だと思って話していた人が、実は悪徳業者だったということもないわけではありません。本人の了解のもと、福祉機関の方から法律相談の申し込みをいただき、本人のいる施設や福祉機関の事務所まで出張して、法律相談をすることもあります。遠方であればあるほど、移動時間が大変である反面、スタッフ弁護士としての活躍どころだとも思っています。

最近コロナの影響で、病院に入院中の方との出張相談が制限される場面がありました。病院には、フェイスシールドをして、短時間での面会をなんとか認めていただき、手続きを進めることができました。医療従事者の方々の苦労を考えると、感染拡大の防止には極力配慮しなければならない反面、法的トラブルの解決も人権の問題としてとても大切なものなので、バランスが大切だなと思いました。

◆今まで解決してきた事例のなかで、特に印象に残っていることはありますか。

仕事をして嬉しかったことは、仕事を通じて、依頼者が元気になったことです。その方が初めて法律相談に来たときは、がりがりにやせて青ざめた様子でした。その方は、夫のDVに苦しんでいて、離婚したらよいか、と悩まれていました。しんどい毎日と、子どもたちには両親がそろった生活が必要ではないか、とを悩み、相談に来られました。離婚事件を進めていく中でもたくさん悩みましたが、最終的に離婚が成立しました。事件終了後、少し経ってからお会いできる機会があり、「ちょっとふとっちゃった。」と健康的に笑いながら言ってくださった言葉が今でもとても印象に残っています。

◆転勤の多い仕事ですが、これまで住んだ場所での印象深いエピソードはありますか。

赴任先でしか行けない場所に旅行することです。福岡に赴任したとき、仕事で通る博多駅に、長崎のランタン祭りのランタンがたくさん飾っていました。地元では有名なお祭りなのかもしれませんが、県外に住んでいるとなかなか知る機会もなく、赴任したからこそキャッチできる情報なのかなと思います。そのときは、長崎のランタン祭りと、軍艦島に遊びに行きました。楽しかったです。



◆お仕事をやる上で大切にされていることはなんでしょうか。

依頼者が困っていることをきちんと「聴く」ことです。

◆最後に、このインタビューを見てくださっている方々に何か一言お願いします。

法テラスは、市民のみなさまが、弁護士や司法書士などの司法へのアクセスがしやすいように、無料法律相談や弁護士・司法書士の費用の立替え、情報提供などを行っています。法的トラブル等お困りのことがございましたら、お気軽に法テラスへご連絡ください。

中島 克浩 常勤弁護士 (スタッフ弁護士)



◆スタッフ弁護士の1日のお仕事の流れを教えてください。

10時から17時までの間に、事務所では法律相談や依頼者との打合せをします。事務所の外の仕事には、裁判のほかに、事務所に来ることが難しい方のために、ご自宅や病院などへの出張相談をすることもあります。17時以降は、裁判所などに出す書面の作成に集中したり、刑事事件で身柄を拘束されている人に面会をしに行ったりします。

◆職場の雰囲気を教えてください。

「困っている人のために」という思いで、一つのチームとして楽しい雰囲気です。使命感はありますが、常に緊張感にあふれているわけではありません。

◆趣味はなんですか。

最近は、とにかく歩いています。1人でもできる体力作りというのがありますが、とある位置情報ゲームを進めるという目的もあります。

◆学生時代に打ち込んでいたことはありますか。

なんだかんだ勉強していました。色々なことを知りたいと思っていました（どうしても理数系は苦手でしたが・・・）。特に日本史は大好きでした。

◆なぜ弁護士になろうと思ったのですか。

理由の一つは、「えん罪が恐ろしい」と感じたことです。学生時代にニュースを見て、身に覚えのない罪を疑われ、警察などに長期間拘束され、自分の言い分を信じてもらえないことに恐怖を覚えました。警察に取調べを受けている人が間違っずに罪に問われないように力を尽くしたいと思いました。他にも、自分の持っている知識を伝えて他人の役に立つことへのやりがい、色々な人や物事を知りたいという知的好奇心もあり、弁護士になりたいと感じるようになりました。

◆また、その（弁護士の）中でスタッフ弁護士を選ばれた理由は为什么呢。

弁護士の少ない過疎地や、直接弁護士事務所に行くことが難しい高齢者などには、弁護士のサービスへの壁があると感じていました。過疎地に赴任したり、高齢者などに支援をする方と関係を築いたりすることを通して、弁護士のサービスへの壁のある人の役に立ちたいと思いました。そのため、そういった活動に重点を置いているスタッフ弁護士を選びました。



◆弁護士になっていなければ何になっていたと思いますか。

会社員か公務員だとは思いますが、どの分野かはなんとも言えません。

◆スタッフ弁護士のお仕事をやられていて嬉しかったこと、やりがいを感じることで、大変だったことは为什么呢。

特にやりがいと大変さを感じるものでいうと、刑事事件の弁護人を務めるとき、とりわけ逮捕・勾留された方（被疑者）に対応するときです。被疑者の人は、連日警察などの取調べを受けていますが、えん罪のおそれがないか、少しでも早く身柄拘束を解けないかと模索します。逮捕、勾留から起訴するかどうかを決める約23日、被疑者や関係者への面会などで大変ですが、「自分がなんとかできることを」と思い、やりがいを感じます。

◆今まで解決してきた事例のなかで、特に印象に残っていることはありますか。

高齢の女性が介護負担もあり精神的に追い込まれて夫を刺してしまったという事件です。弁護士になりたてのころに弁護人を務めた事件でした。今でもたまに、その女性が元気かどうか頭に浮かぶことがあります。

◆転勤の多い仕事ですが、これまで住んだ場所での印象深いエピソードはありますか。

前は高知県で仕事をしていたのですが、とにかく海の幸がおいしかったです。カツオ、ちりめんじゃこのほか、鯛やウツボなども印象に残っています。ちなみに、広島も、お好み焼、かき、もみじ饅頭、呉冷麺など魅力的な食べ物が多く、来て間もないですが今後も楽しみです。

◆お仕事をする上で大切にされていることはなんですか。

健康です。自分が身体を壊すと、自分を頼ってくださる方にも迷惑がかかりますので、気をつけようと思っています。そのためにも、たくさん食べて、しっかり寝て、運動をするというように、当たり前のことをおろそかにしないようにと肝に銘じています。

◆最後に、このインタビューを見てくださっている方々に何か一言お願いします。

法テラスでは、弁護士や司法書士にアクセスしてもらいやすくするために、無料法律相談、費用の立替え、情報提供などを行っています。法テラスに所属する弁護士も、経済的、地理的要因などで弁護士などへのアクセスが難しい方を中心に、個々の人の役に立つために日々励んでいます。このインタビューをお読みの方で、もし法的トラブル等お困りのことがございましたら、お気軽に法テラスへご連絡ください。

